

ぜんこく かいけん そ し だいこうしん
 全国で改憲阻止！大行進を

ぜん せ かいろうどうしゃ けっ き れんたい ろうどうほうせいはいあく くだ
 全世界労働者のゼネスト決起と連帯し、労働法制改悪うち砕こう

じょう む いんせい ど かいたい そ し こくてつしゅうかい
 乗務員制度解体阻止！7・1国鉄集会へ

がつみつ か たかまつ し む じつ ごくちゅう ねん ほしの ふみあき かいほうぜんこく
 6月3日、高松市でかちとられた「無実で獄中 43 年 星野文昭さん解放全国

しゅうかい ほしの かいほう め ぎ とも げんざい ふ はい こっ か しゃかい
 集会・パレード」は、星野さんの解放を目指すと共に、現在の腐敗した国家と社会

のあり方を根底から 覆 す新たな 闘いの始まりです。労働者や青年・学生の未来

を破壊し命 さえ奪う攻撃に、もう黙ってはいられない！ いよいよ「改憲・戦

争阻止！大行進」運動を全国各地に無数に巨大につくり出すときです。闘 う労

働組合を今こそよみがえらせよう！ 7・1国鉄闘争全国運動 集会に総結集

し、「働き方改革」法案粉碎、改憲・戦争絶対阻止、安倍政権打倒へ攻め上ろ

う！

たいちゅうあつりょくつよ
 対中圧力強めるトランプ

ちょうせんはんとう じょうせい げきどう なんぼくかいだん
 朝鮮半島をめぐって、ものすごいテンポで情勢が激動しています。南北会談

につづ べいちょうかいだん かいさい べい せいけん きたちょうせん せいけん
 に続く米朝会談の開催をめぐり、米トランプ政権と北朝鮮キムジョンウン政権

との間で激しい駆け引きが繰り返されています。トランプは5月24日にキ

ムジョンウンに会談中止の書簡を送り、「われわれはもっと巨大な核を保有し

ている」「軍は必要とあらば、(戦争発動の)準備は整っている」と警告し、

北朝鮮の全面的な屈服を迫りました。これに恐怖したキムジョンウンが「中

止撤回」を求め、協議が再開される中、トランプは北朝鮮の背後にいる中国

への経済・政治・軍事の全面にわたる争闘戦の圧力として、今回の米朝会談を

すすん
推進しています。

この間の米中貿易戦争の激化は、全世界経済の土台を揺るがすほどすさまじいものです。トランプは米朝会談の中止発表と同時に自動車や自動車部品の関税を 25% に引き上げることを宣言しました。これによって韓国、欧州、そして何より日本の自動車産業が大打撃を受けます。また 5 月 3、4 日に北京で行われた米中通商協議では「対米貿易黒字を年間 2 千億ドル (22 兆円) 削減しろ」など、中国が到底のめない要求を突きつけています。

この背景には、自動車産業をはじめとする製造業での圧倒的優位を土台として世界支配を貫いてきたアメリカ帝国主義が、その自動車産業で国際競争に敗れ崩壊したことで、世界政策を展開する能力を完全に失ってしまったことがあります。「アメリカ第一主義」とその暴力的貫徹だけが残された道となったのです。

したがって米朝会談をめぐるすべての動きは、さらに巨大な世界戦争を準備するものになっているのです。日本帝国主義・安倍政権が改憲に突っ走っているのは、この戦争情勢から取り残されれば、日本が帝国主義として生き残れないという恐怖を抱いているからです。改憲・戦争を阻止する闘いは戦争を不可避とする日本の社会・体制を根本から変革する闘いです。

かろうし いぞく いか けつき
過労死遺族が怒りの決起

いま ちょうせんはんとう なんぼくぶんだんたいせい した じつりょく う やぶ どういつ もと ちからづよ
今、朝鮮半島の南北分断体制を下から実力で打ち破り、統一を求める力強い闘いが韓国・民主労総を先頭に始まっています。朝鮮侵略戦争を阻止する巨大な歴史的闘いです。

韓国^{かんこく}の労働者^{ろうどうしゃ}民衆^{みんしゆう}はパククネ大統領^{だいてうりよう} (当時^{とうじ}) を監獄^{かんごく}にぶち込み^こ、その先頭^{せんとう}で闘^{たたか}った民主^{みんしゆう}労総^{ろうそう}のハンサンギョン^{ぜん いんちよう}前委員^{ぜん いんちよう}長^{ごくちゆう} を獄中^{と もど} から取り戻^{みんしゆう}しました。民主^{みんしゆう}労総^{ろうそう}はさらに、ムンジェイン^{せいけん}政権^{せいけん}による最低賃金^{さいていちんぎん}制改悪^{せいがいあく}の強行^{きやうこう}に対して^{たい} 5月^{がつ} 28日^{にち}、ゼネラル^たストライキ^あに立ち上がり^ありました。この闘^{たたか}いに連帯^{れんたい}し、続^{つづ}きましょう。

労働者^{ろうどうしゃ}階級^{かいきゆう}のゼネスト^{かくめい}一革命^{べいてい}で米帝^{にっぺい}・トランプ^あ、日帝^{にっぺい}・安倍^{だとう}を打倒^{だとう}することこそ戦争^{せんそう}を止^とめる道^{みち}です。

全世界^{ぜんせかい}で労働者^{ろうどうしゃ}民衆^{みんしゆう}が果敢^{かかん}に闘^{たたか}っています。フランス^{こくてつろうどうしゃ}では国鉄^{こくてつ}労働者^{ろうどうしゃ}、公務員^{こうむいん}労働者^{ろうどうしゃ}を先頭^{せんとう}に長期^{ちやうき}ストライキ^たが闘^{たたか}われ、学生^{がくせい}も連帯^{れんたい}して立ち上^たがっています。アメリカ^{あめりか}では、「トランプ^{しゆう}の州^{しゆう}」であるウエストバ^{ぜんしゆう}ージニア^{がっこう}の全州^{ぜんしゆう}で学校^{がっこう}ストライキ^{しゆう}が闘^{たたか}われました。トルコ^{どくさいたいせい}では、エルドアン^た独裁^{どくさいたいせい}体制^{たい}に立ち向^むかう戦^{せん}時^じ下の^{した}メーデー^たが闘^{たたか}われました。

日本^{にほん}では安倍^あ政権^{せいけん}による「働き方^{はたら}改革^{かたかいかく}」法案^{ほうあん}の衆院^{しゆういん}採決^{さいけつ}強行^{きやうこう}に対し、過労^た死^し遺族^{いぞく}を先頭^{せんとう}に労働者^{ろうどうしゃ}とその家族^{かぞく}が怒^{いか}り、立ち上^たがっています。法案^{ほうあん}の柱^{はしら}である高度^{こうど}プロフェッショナル^{せいどうにゆう}制導^{せいどうにゆう}入^{にゆう}によって労働^{ろうどう}時間^{じかん}規制^{きせい}が完全^{かんぜん}になくなり、年間^{ねんかん}104日^{にち}、4週^{しゆう}のうち4日^{よっか}の休^{やす}みがあれば1日^{にち}24時間^{じかん}働^{はたら}かせても合法^{ごうほう}となります。過労^{かろう}死^ししても、労災^{ろうさい}とは一切^{いっさい}認定^{にんてい}されなくなります。過労^{かろう}死^し遺族^{いぞく}は「労働者^{ろうどうしゃ}の命^{いのち}を奪^う法律^{ほりつ}を作るな」と怒^{いか}りの声^{こえ}を上げ^あています。これは国境^{こっきやう}を越^こえた全世界^{ぜんせかい}の労働者^{ろうどうしゃ}の声^{こえ}です。

労働者^{ろうどうしゃ}に死ぬ^しまで働^{はたら}くことを強^{きやう}制^{せい}する資本^{しほん}家連^か中^{れんちゆう}こそが、戦争^{せんそう}を引き起^ひこすのです。やつらを支配^{しはい}の座^ざから引^ひきずり降^おろそう！

にちだい ぶ はい しゃかい しゆく ず
日大^{にちだい}の腐敗^{ふはい}は社会^{しゃかい}の縮^{しゆく}凶^ず

日大アメフト部問題で明らかになっている大学や組織の腐敗した姿は、戦争
 ・改憲に突き進む安倍の姿そのものであり、社会と職場の縮図です。
 内田正人前監督の「自分は指示していない」「認識の乖離（かいり）」などと
 いう言辞は、安倍の国会答弁と全く同じです。内田は日大の常務理事（人事担当）
 であり、ナンバー2でした。日大は、学生から高い学費を収奪し「グッズ」な
 どを販売する一方で、清掃や警備などのあらゆる業務を非正規職化して膨大な
 利益をせしめてきました。まさに新自由主義大学であり、巨大企業です。トッ
 プの理事長・田中英壽は暴力団や警察と癒着し、つい最近まで日本オリンピ
 ック委員会の副会長も務めていた人物です。こうした連中が牛耳り、「もの
 も言えない」状況が日大の中にはあったのです。

こうした腐敗しきった日大の姿は、改憲・戦争に突き進む安倍政権の姿であ
 り、過労死するまで働かされる労働現場の現実であり、2020年東京オリン
 ピックの正体です。これに対して、日大のアメフト部員をはじめ、これまで「黙
 らされていた」学生がついに声を上げはじめました。教職員組合も動き出しま
 した。

これまでの支配が根底から打ち砕かれようとしています。青年・学生、労働者
 はいつまでも黙らされている存在ではありません。確実に歴史が動き始めていま
 す。「改憲と戦争を止めよう！」「安倍を、これまでの支配者どもを監獄にぶち込
 もう！」という荒々しい闘いの始まりです。

必要なのは、どんなことがあろうとも筋を曲げない闘いと、その指導部の登場
 です。国鉄分割・民営化と30年以上にわたり絶対非和解の闘いを貫いてきた
 動労千葉・動労総連合を先頭とする国鉄闘争—1047名解雇撤回闘争が、改憲
 ・戦争阻止、安倍政権打倒へ闘う労働者人民の結集軸となって登場するとき

です。J R 東労組の崩壊は、全労働者の積もりに積もった怒りを解き放ち、
職場から新たな闘いを起こしていく絶好のチャンスです。

5月28日、動労総連合1047協議会は団体交渉と解雇撤回を求めて新たな労働委員会闘争を開始しました。国鉄闘争を柱に労働運動を復権させよう。

J Rの「乗務員勤務制度」解体提案への怒りをはじめ、すべての職場に怒りと闘いの機運が満ち満ちています。そのすべてと結びつき、7月1日の国鉄闘争全国運動集会に集まろう。改憲と戦争への怒りを一つにする大行進運動を全国に無数につくり出しましょう。

安倍政権への怒りとともに、「星野さんを解放せよ！」という声が今や全国に巻き起こっています。感動的な成功をおさめた6月3日の高松集会・パレードの高揚を、5月20日に掲載された意見広告とともに、さらに広く伝えよう。四国地方更生保護委員会に対する要望書を職場から、街頭からさらに2倍、3倍と集めて6月15日の第8回申し入れに上りつめよう。